



Title	もめごと・トラブルを解決していくということ
Author(s)	稻葉, 一人
Citation	臨床哲学のメチエ. 2003, 11, p. 36-39
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/12679
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

十一月五日(火)



テーマ
身近なトラブルを
解決する

もめごと・トラブルを
解決していくということ

稻葉一人

1 はじめに

二〇〇一年十一月五日に表記テーマで、福井高校で授業を行いました。その概要と考察のほか、資料として、その際の生徒からのアンケートを集計したもの添付して、ここに報告します。

私自身、元裁判官として、また、紛争解決の専門家として、現在法律家相手に、Mediation(調停)の技法のトレーニングをしていましたので、今回の高校生への授業は私が試される場面であるとして、緊張をしました。案の定相当苦労しましたが、新たな発見があり、驚き感動しました。

2 概要

ビデオとアンケートを用いました。用いたビデオ(私がスクリプトを書き、劇団が演じたもの、素材は本当の事件)は、「伊藤さん」が、「高野さん」夫婦の隣の犬が鳴いてうるさ」というのに、これを高野さんが認めず、まず、当事者同士で交渉するがうまくいかず、下手な第三者(調停者、Mediator)が入つてもうまくいかず、上手い(トレーニングを受けた)調停者が仲介するなど対話ができるなど、3部構成のものです(このスクリプトは大部ですので、この報告書には掲載していません)。このビデオを順に見ても(一)なぜこの当事者同士の話(二)それぞれ、(一)なぜこの当事者同士の話(三)田さん)が入つてもなぜ上手くいかなかったのか、(三)上手い調停者はどうが上手かったのか、(三)上手い調停者はどうが上手かつたのか

かと、一人一人、私が、聞き出していくといふ戦術をとりました(当初は全体で対話ができると思いましたが、無理と考え、一人一人とじつくり対話していくことにしました)。同時に、手元にそれぞれの問い合わせを書いた紙を配り、私との対話・会話でたどり着いた点を、自分の言葉で書いてもらつ(これが後記アンケートです)といふことを副次的に用いました。一見、一人一人の意見を聞くという作業でありながら、残りのものは私語をしながら、これに関連して話をしていたたり、ビデオを共通のものとして、他人事としてとらえず、私を中心とした話でありながら、それぞれがよく考えてくれました。たとえば、Wさんは(一)について、高野さんが認めなかつたので、うまくいかない、だから、証拠が必要だ、しかし、それをテープでとつて

持つて行つても、自分の犬ではないといわれてしまつので、ビデオに撮つて持つて行つたり・・・として、様々な相手の対応を想定して、具体的な方法を考えてくれました。Mくんは、「同じ被害を蒙つた多数の近所の人を連れて行つたらしいのでは」としますが、「では君が高野さんだつたらどうするか」と質問すると、よけいに反発することに気づき、「中立者が必要だ」と応答します。Mさんは「Eさんは、仲良しですが、『もし君たちが高野さんで、証拠を突きつけられるといひするか』と問うと、Mさんは『納得できないし反発を感じる』とし、Hさんは『すぐにあきらめて謝つてしまい』とし、二人が違う対応をとるところ」とに気づき、「それはなんぞだろう」と水を向けると、Eさんは「人だから、考えが違う」と。同じことは、全員について言えます。(一)・(二)・(三)にしても、とてもすばらしい応答が、「これはむしろ専門家や大人ではない、とてもユニークで私が教えられる回答を自ら搾り出してくれました。どの答えもそれなりに光つていましたし、私がこの答えをしてくれと示唆は一切しなくとも（私は、答えはないと思つていますが）、なんとか出できます。ただ、全員が同じ話題を、意見の違いを超えて話し合う訓練がなされていなかったため、一つの話題を中心全員を引き込むことは難しいのですが、一

人一人ねばり強く聞き、抽象的な言葉で思考を止めようとする（「JJDで粘り）chunk-downというcoachingの手法で塊を揉みほぐすと、実に自分の言葉で、深い言葉が返ってきたことは事実です」、私自身もこれを受けて変わつてきました。Mくんはこんな授業が面白ことさせやしてくれ（本当かどうか分からぬが）、彼女は、くしくも、成功した調停者は、自分の意見を押し付けるではなく、「よく聴いていた」点に成功のポイントがあると言つてくれていました。少々、干渉くさい授業でしたし、多大なエネルギーが必要ですが、多く得るところはあります。

3 考察

この生徒たちは、紛争についてこれまで真剣に考へたことはなかつたと思います。しかし、彼ら彼女の言葉を味わつてみると、私との対話で出てきた、至極の言葉は、彼ら彼女の生活

空間から生まれた生の言葉であるつと考えられます。誘導されて出てきたのでも、彼ら彼女らが、特殊というのもありません。普通の高校2年生です。人は、その事態に想像力を働かせ、関心を持ち、また、できれば、立場を入れ替え

する者として、絶えず市民らは、自己解決能力を有している、専門家は市民から学べといつことを述べていますが、この授業はこれを十分に裏付けることができます。その意味でも、私は、生徒を信じ、彼ら彼女から真摯に学ぶべきと/orするのです。この授業は、私にとつても大変勉強になりました。

また、教育方法としても検討に値すると思います。社会における実際の事件で、かつ、身近な事案を元にして具体的に自分もその当事者となつて考へることとは、生徒同士がお互いの考え方を受け止め方の多様性を知ることができます。また、このよつた授業をする」とにより、対人紛争問題の解決能力を持つことができとすれば、これはむしろ社会に生きるために基礎的スキル考へ、これこそ、中高校生が学校で学ぶことだろつと考えます。

米国では、Peer Mediationひとつ、学校内で起つた生の事件・トラブルを、生徒が調停者（Mediator）となつて、調整をするという学校教育が盛んに行われていますが、これは日本での始めての導入の試みといえます。
(いなばかずと 京都大学大学院医学研究科、科
学技術文明研究所特別研究員)

以下のアンケートでは、個人名を示していませんが、番号を付記することで、一人の生徒が、この授業の中でどのような発展をして行ったかを見ていきたいと思います。

アンケート

1 伊藤さんと高野らとの話がうまくいかなかった理由はなんだと思いますか。

高野さんが原因を作っている（1）

伊藤さんが高野さん宅に一人で行ったから（2）

話ののりで「吠えていない」と言ってしまって、「やっぱり吠えていたかも」と言えなかつた（3）

高野さんが自分の非を認めなかつたから（4）

高野さんが自分の犬が吠えているのに認めなかつたから（5）

高野さんが犬を吠えたことを否定した（6）

高野さんが伊藤さんの意見を一方的に否定したから（7）

証拠があるわけではないから（8）

伊藤さんと高野さんの話し合いで、高野さんが相手にしていない（8）

高野さんが強いから（9）

2 どうすれば話し合いがうまくいくと思いますか。

高野さんが解決策を出せばいい（1）

近所の人を連れて一緒に高野さんと話し合いをする（2）

どっちの人も一方的に話すぎているから、落ち着けばいい（10）

伊藤さんが高野さんを納得させればいい（10）

まず、伊藤さんが個人でできる対策からスタートする。窓を閉める、音楽をかけて寝る。でも別の問題が発生しそう（3）

証拠として犬の声とかを録音しておく。だけども、他の犬とか言われそう。ビデオで採る。でも十分ではないかも（3）

高野さんの周りの人と手を組む（3）

とにかく人の話を聴け（3）

伊藤さんと同じ立場の人を連れてきてまた抗議する（4）

中立の立場にいる人を連れて行く（4）

まわりの意見を聞く（5）

高野さんが認めて謝る。しかし、謝ってすむ問題じゃない。部屋で飼う（6）

犬が吠えているときに、文句を言いに行く（6）

伊藤さんが人を集め、高野さんに文句を言いに行く（7）

犬の鳴き声を録音したテープを持っていく（8）

多くの人を呼んで署名運動をする（8）

もっと多くの同じ不安や不満を持っている人を連れてくる（8）

証拠が必要（9）

3 調停者が間に入っても話がうまくいかなかった理由はなんだと思いますか。

まとめるのが下手だった。リーダーが必要だった（1）

調停者が優柔不断だったから。軸がない（2）

話を順序立てないから、中立の人が足でまといとなった（10）

調停者が最初から自分の意見を言っていたらよかったかも（5）

ここまでできたら引き下がれない。性格が違うから（5）

間に入っている人がしっかりしていないから。伊藤さんが意見を言ったらそっちについて、高野さんが意見を言ったら高野さんにつくからもっとしっかりした自分の意見を強気で言つたらいい（6）

中間にいた人が場を仕切っていなかった（7）

犬のことは認めて謝るが、ビデオを勝手に取るのは許さん（7）

中間にいる人が中途半端（8）

証拠を持ってきても納得しない（8）

真中の人が頼りない（9）

4 調停者が入って話がうまくいった理由はなんだと思いますか。

お互いのことを分かる人（1）

きまりがあった（1）

調停者がしっかりしていたから（2）

中立の人が何もしないのにうまくまとまった（10）

まとめるのをしなかった。双方の話しやすい環境を作ったから（4）

自分だったらすぐに謝る。証拠とかつきつけられる前に苦情が来た時点でごめんなさい（6）

両方の意見をしっかり聴いてどうするか本人同士で決めさせた（6）

調停の人が、両者ともに、冷静に話し合える状況を作った（7）

中間に入るものがしっかりとして両方の意見に流されないようにする（8）